



南富良野高の挑戦

小さいから
できる

2024年度公立高入試の当初出願状況(1月24日現在)によると、町立で普通科の南富良野高への出願は19人。目標の20人には届かなかったが、南富良野町と高校が力を合わせた生徒募集の活動は成果を上げた。昨春に着任し、学校の魅力を高めるために奔走する永谷哲治校長(53)に、現状や課題、未来像などについて語ってもらった。

南富良野高は全校生徒33人の小所帯です。中学時代に不登校とか、人間関係をリセットしたいと考えて入学してくる生徒も少なくありません。だから、目指すのは「生徒が明日も登校したい学校」。教員たちがサポートしています。

① 昨春着任の校長に聞く

明日も通いたい学校へ



ながたに・てつじ 1970年、苫小牧市生まれ。大学卒業後、釧路湖陵高や八雲高で保健体育科教諭として教え、遠軽高と幕別清陵高の教頭、北広島西高副校長を経て現職。

今春、21年度入学の3年生3人が卒業します。彼らは同年から始まった学校設定科目「アウトドア」の基礎を築いた1期生。導入1年目に試行錯誤を重ね、今の1年生14人、2年生16人が続いています。活動の幅が広がり、内容にも

磨きがかかりました。

アウトドア教育の目的は、必ずしもアウトドアガイドの養成ではありません。地域イベントの企画運営などを通して町民らと関わる中で、コミュニケーション能力や課題を解決する能力を向上させ、将

来の「生きる力」を養うことがゴールです。3年生は十分その力が備わったと思います。

一方、もっと生徒がやりたいうことを主張し、実行しても良いのです。昨年10月の生徒会執行部主催のハロウィンパーティーのように生徒主体で定期的に町民を巻き込んだイベントを開催していくのが理想です。自分たちで課題を見つけて行動を起こして解決する力が今の学校教育に求められています。それは「学校の魅力化」にもつながります。高校の伝統として根付かせていきたいです。

少子化で、生徒募集の難しさを痛感しています。当初出願状況の倍率を見ても、道内の多くの高校が定員割れを起こしています。ただ、南富良野高にはアウトドアという強

みがあります。23年度は旭川市や札幌圏、日高管内の中学校を、教頭と事務長、教員と手分けして回りました。24年度の出願19人は、その結果が出たと捉えています。

町立高は、道立高ほど明確な募集停止の基準はないですが、町民が「必要ない」と感じ始めたら、存続は厳しくなります。だから、教育活動を理解し、応援してくれる町や町民に恩返しすることはとても重要です。生徒がイベントを開催するなどまちづくりに関わるのはその一つですが、最終的な目的は南富良野を好きになり町内で就職し、地域活性化に携わることです。

もう一つの理想は、町民にとって高校が気軽に足を運べる場所になることです。イベント会場がなくて困った時、「高校の体育館を使おう」となれば最高です。地域の交流の中心に南富良野高生がいる。そうなるために地域とつながりをさらに強めていきます。(聞き手・相武大輝)